

## 第 2 部 重点戦略

● 今後、財政状況が厳しくなる中で、本市が目指す将来都市像の実現に向けて、限りある経営資源を選択と集中の視点で、最小の資源で最大の効果をあげていくことが重要となります。

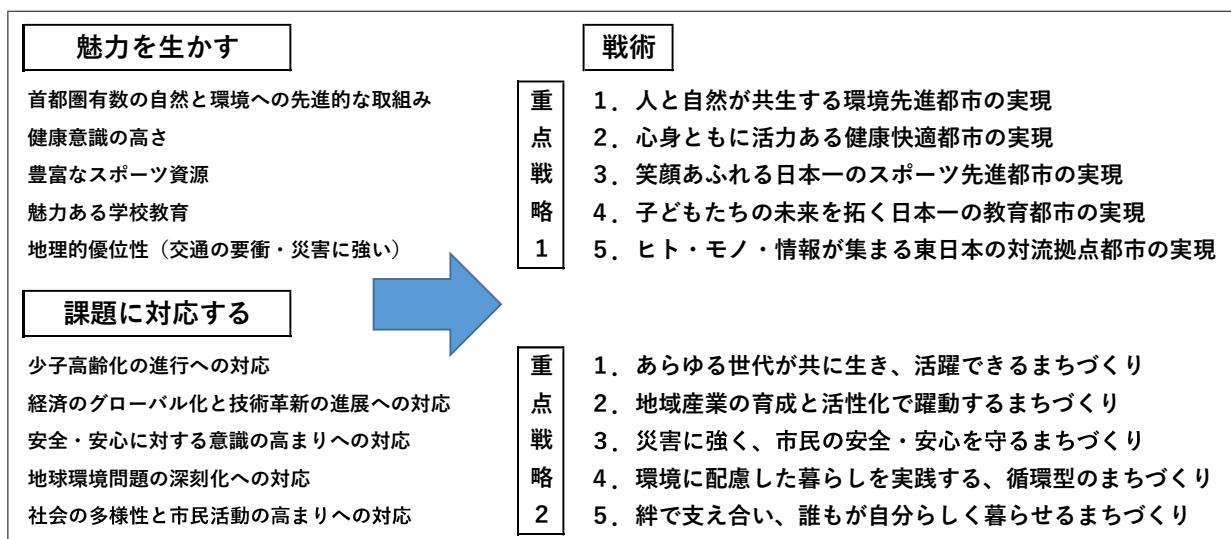
● そのため、これまでのまちづくりで育まれた「強み」や「優位性」である「魅力」を最大限に活用していくことで、市民が幸せを実感し、市民や企業から選ばれ、さらなる成長・発展に繋げていく必要があります。一方で、本市を取り巻く環境が厳しさを増す中、将来も持続可能な都市として、成長・発展し続けるためには、直面する「課題」に迅速に対応し、まちづくりの土台をしっかりと築いていく必要があります。

● そこで、『「さいたま」の 5 つの魅力を生かして、成長・発展する戦略』と『課題に対応し、持続可能なまちづくりを進める戦略』の 2 つの重点戦略を設定します。

**重点戦略 1 「さいたま」の 5 つの魅力を生かして、成長・発展する戦略**  
 ～「幸せ」を実感し、市民や企業から選ばれる都市～

**重点戦略 2 未来に引き継ぐための持続可能なまちづくりを進める戦略**

● 2 つの重点戦略を実現するために、分野横断的に「魅力」を生かし、「課題」に対応する 10 の戦術を掲げます。



## 重点戦略1 「さいたま」の5つの魅力を生かして、成長・発展する戦略 ～「幸せ」を実感し、市民や企業から選ばれる都市～

### 魅力1：首都圏有数の自然と環境への先進的な取組み

#### 戦術1 人と自然が共生する環境先進都市の実現

##### 目指す方向性

見沼田圃や荒川・元荒川をはじめとする豊かな自然資源を守り育て、それらを重要な資産として活用し、水と緑に囲まれた潤いのある都市生活を実現します。

また、次世代自動車・スマートエネルギー特区に関するこれまでの実績や取組をさらに加速させて、再生可能エネルギー等の導入を積極的に促進し、地域内での電力の地産地消と自立・分散型エネルギーシステムを構築するなど、持続可能なエネルギーを確保し、低炭素なライフスタイルを楽しむ「環境先進都市」の実現を目指します。

##### ▶重点ポイント

###### ◆首都圏有数の自然環境の活用

- ・見沼田圃の次世代への継承
- ・良好な生活環境及び自然環境の保全

###### ◆脱炭素社会に向けた先駆的な技術やサービスの展開

- ・再生可能エネルギーの積極的導入
- ・電力の地産地消

### 魅力2：健康意識の高さ

#### 戦術2 心身ともに活力ある健康快適都市の実現

##### 目指す方向性

市民の健康意識の高さと、平坦な歩きやすい地形を生かし、ICTを活用した科学的根拠に基づく健康づくりや、「歩く」を基本に、楽しみながら「体を動かす、体を動かしてしまおう」まちづくりを推進します。市民が自ら進んで身近な健康づくりに取り組む環境づくりを進めることで、市民一人ひとりが「健幸」な暮らしの実現を目指します。

##### ▶重点ポイント

###### ◆ライフスタイルやライフステージに応じた「健幸」づくり

- ・ICTを活用した科学的根拠に基づいた健康づくり
- ・歩くことを中心に楽しく続ける健康づくり

※「健幸」…身体面の健康だけではなく、人々が生きがいを感じ、心豊かな生活を送れること

### 戦術3 笑顔あふれる日本一のスポーツ先進都市の実現

#### 目指す方向性

さいたま市を本拠地とするプロスポーツチームや、大規模スポーツ施設、東京オリンピックレガシーなどの豊富な「スポーツ財産」を生かしたスポーツツーリズムなど、スポーツの分野で観光・交流人口の拡大を図ります。

また、地域における市民参加型のスポーツイベントなど、生涯を通じて身近にスポーツに親しめる環境を整備することで、「スポーツ先進都市」の実現を目指します。

#### ▶重点ポイント

##### ◆スポーツを活用した総合的なまちづくりの推進

- ・新たな交流を創出するスポーツ拠点としてのスポーツシュレの整備
- ・サッカーを核とした「スポーツのまち さいたま」の発信
- ・スポーツツーリズムなどによる観光、交流人口の拡大（市民参加型スポーツイベントの開催、民間力等や最新のICT技術を活用したスポーツ環境の整備）

##### ◆生涯スポーツの振興

- ・地域で気軽にスポーツに親しむことができる機会の提供
- ・スポーツを通じた地域コミュニティの形成・醸成

### 戦術4 子どもたちの未来を拓く日本一の教育都市の実現

#### 目指す方向性

国に先駆けた英語でのコミュニケーションと主体的に行動できる人材の育成を目的とした「グローバル・スタディ」などを通じて、グローバル社会で活躍する力の育成に取り組みます。また、他者と協働しながら新たな価値を創造していく力、夢を実現しようとする高い志をもって可能性に挑戦する力を育成し、学力を伸ばすとともに、将来への高い意識と自尊心を備えた児童生徒を育成するなど、さいたま市ならではの特色を活かした魅力ある教育を目指します。

#### ▶重点ポイント

##### ◆未来を拓くさいたま教育で子どもの力を伸ばす

- ・12年間の学びの連続性を生かした真の学力の育成
- ・グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成

## 戦術5 ヒト・モノ・情報が集まる東日本の対流拠点都市の実現

## 目指す方向性

新幹線6路線などが乗り入れる「東日本の玄関口」である大宮駅を有する本市の拠点性を生かして、東日本の中枢都市としての都市基盤の整備や多様で高次な都市機能の集積、広域的な交通網の強化、対流拠点機能の強化などを進めるとともに、大学等との連携による戦略的な研究・技術開発支援及び成長分野におけるイノベーションの創出に対する支援を強化し、本市及び東日本全体としての経済の活性化を目指します。

また、大規模な自然災害が起こりづらい地理的条件や、「さいたま新都心」付近が国の緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の進出拠点に位置付けられたことから、広域防災拠点としての機能の強化を図り、災害時の首都機能をバックアップする拠点機能を有する都市の実現を目指します。

## ▶重点ポイント

## ◆国際的な結節機能の充実

- ・東日本の対流拠点機能の強化
- ・広域鉄道・道路網の強化
- ・空港へのアクセス強化

## ◆対流拠点機能の集積強化

- ・東日本の「ヒト・モノ・情報」の交流、発信
- ・広域周遊観光ルートの構築
- ・MICEの推進

## ◆強い産業力の創出

- ・産業集積拠点の創出
- ・成長分野におけるイノベーションの創出
- ・起業支援の充実

## ◆広域防災拠点機能の強化

- ・災害時のバックアップ拠点機能の強化（広域防災拠点の要となる防災公園の整備）

## 重点戦略2 未来に引き継ぐための持続可能なまちづくりを進める戦略

### 課題1：少子高齢化の進行への対応

#### 戦術1 あらゆる世代が共に生き、活躍できるまちづくり

##### 目指す方向性

少子化の進行、保育需要のさらなる拡大に対応するため、妊産婦や子育て家庭の不安や悩みを軽減するための切れ目ない支援を行うとともに、様々な事情やニーズに応じた多様な保育の受け皿と質の向上や、放課後児童クラブの充実を図り、安心して子どもを産み育てることができる環境を整備することで、子どもと共に生きるすべての人が社会で活躍できるまちを目指します。

また、急速な高齢化が予測されることから、医療・介護・予防等が一体的に提供される地域包括ケアシステムの基盤構築や、高齢者の移動支援などにより、心身ともに健康的で安心して暮らすことができる環境を整備するとともに、高齢者が意欲や熱意をもって社会や地域で活躍できるまちを目指します。

##### ▶重点ポイント

###### ◆子ども・子育てを支える都市の実現

- ・安心して妊娠・出産・子育てできる切れ目ない支援
- ・子育てニーズに対応した多様な受け皿の確保と質の向上

###### ◆心身ともに健康的で安心して長生きできるまちづくり

- ・地域包括ケアシステムの基盤構築
- ・高齢者の移動支援

### 課題2：経済のグローバル化と技術革新の進展への対応

#### 戦術2 地域産業の育成と活性化で躍動するまちづくり

##### 目指す方向性

県内外との都市間競争の激化や、AI等最新の技術革新による産業構造の変化が進む中、本市が生き残るための強い産業力を育成するため、中小企業者の経営基盤強化への支援や、商業の活性化のためのにぎわいづくり等の取組を推進し、地域産業を中心に躍動するまちづくりを推進します。

また、生産年齢人口の減少により、これまで就業機会のなかった方や求職者のニーズに応じた就労支援の充実、誰もが働きやすい就労環境の整備に取り組みます。

##### ▶重点ポイント

###### ◆地域産業の振興

- ・活力ある地域産業を育てる環境の整備
- ・商店街のにぎわい創出

###### ◆地域経済を支える人材の育成、就労支援及び魅力ある就労環境の整備

### 戦術3 災害に強く、市民の安全・安心を守るまちづくり

#### 目指す方向性

大規模自然災害による甚大な被害への懸念に対して、行政、関係機関及び地域が連携し、市民全体の防災意識の醸成を図るとともに、自主防災組織の育成強化、緊急輸送道路や上下水道等の都市インフラ、建築物の耐震性確保等により、市民の生命と財産を迅速・的確に守るための取組を進めます。

また、高齢者の交通事故の割合が増加傾向にあることから、交通安全教室等を通じて、交通マナーの向上と交通ルールの遵守の徹底を促すとともに、身近なところで起きる街頭犯罪に対して地域における防犯活動を活性化し、安全で安心に暮らせる街を目指します。

#### ▶重点ポイント

##### ◆災害に強い都市基盤整備

- ・ 防災上の課題に応じた都市、生活インフラ等の整備

##### ◆地域と共に進める災害対策

- ・ 防災意識と地域防災力の向上
- ・ 消防・救急体制の充実強化

##### ◆安心して暮らせる都市の実現

- ・ 交通事故の防止
- ・ 地域と連携した防犯の推進

### 戦術4 環境に配慮した暮らしを実践する、循環型のまちづくり

#### 目指す方向性

脱炭素社会の実現に向けて、シェアサイクルの普及や自転車ネットワーク路線の整備、安全な歩行空間の創出により、公共交通機関や自転車・徒歩への利用転換を促進することで、クリーンで快適な暮らしを実践できるようにします。

また、節電や省エネ、3R（リユース・リデュース・リサイクル）といった従来からの環境に対する取組はもとより、近年新たな課題となっているプラスチックごみと食品ロスの削減に向けた意識啓発に取り組み、環境に配慮した循環型のライフスタイルの実現を目指します

#### ▶重点ポイント

##### ◆環境に配慮したライフスタイルへの転換

- ・ 廃棄物の3R（発生抑制・再利用・再生利用）の推進
- ・ 過度な自動車利用から公共交通機関や自転車・徒歩への利用転換

## 戦術5 絆で支え合い、誰もが自分らしく暮らせるまちづくり

### 目指す方向性

市内に居住する外国人と日本人が互いの文化や習慣などを学び合う機会を充実することや、障害のある人が権利の主体として、障害のあるなしに関わらず、共に暮らせる地域社会を形成するなど、互いが持つ文化や価値観を尊重し、誰もが自分らしく暮らせるまちを目指します。

また、生活様式の変化や住民の頻繁な流入・流出、単身世帯の増加・核家族化等による家族や地域の支え合い意識の希薄化など、まちづくりの基盤となる「地域力」の低下に対して、子どもから高齢者まで多世代の交流を促進するとともに、学校や歴史文化資源等を活用した地域コミュニティの活性化を図り、地域の絆やソーシャルキャピタルを高めることにより、人と人が触れ合い、支え合う地域社会の形成を目指します。

### ▶重点ポイント

#### ◆誰もが自分らしく暮らせる地域共生社会の実現

- ・人権を尊重する意識の醸成
- ・多文化共生社会の推進
- ・ノーマライゼーション理念の実現

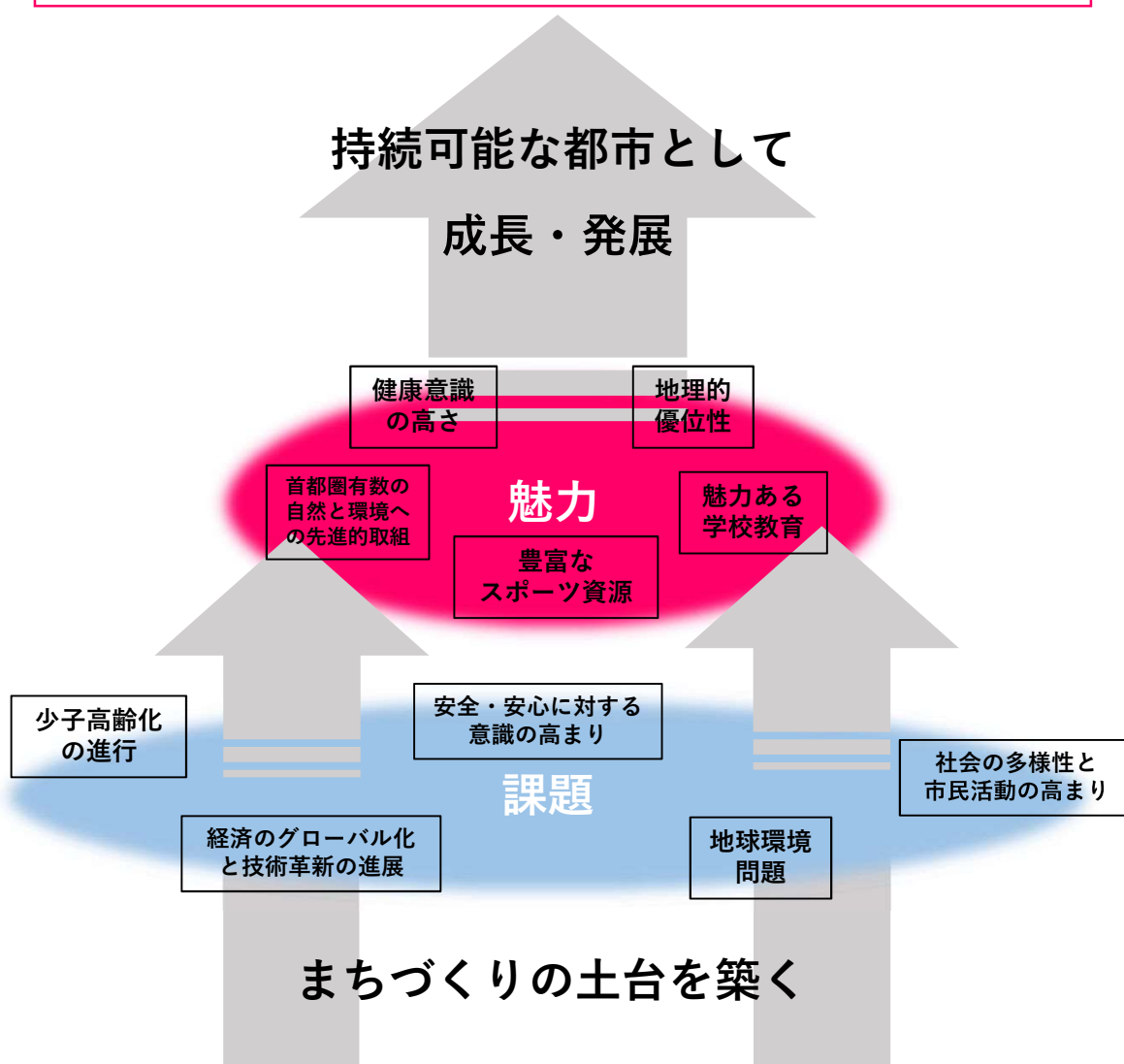
#### ◆ふれあいのある地域社会の形成

- ・地域住民等の交流や自主的活動の促進
- ・スクール・コミュニティによる連携・協働の充実
- ・文化芸術を活用した地域コミュニティの活性化

## 重点戦略 1

「さいたま」の5つの魅力を生かして、成長・発展する戦略

1. 人と自然が共生する環境先進都市の実現
2. 心身ともに活力ある健康快適都市の実現
3. 笑顔あふれる日本一のスポーツ先進都市の実現
4. 子どもたちの未来を拓く日本一の教育都市の実現
5. ヒト・モノ・情報が集まる東日本の対流拠点都市の実現



## 重点戦略 2

未来に引き継ぐための持続可能なまちづくりを進める戦略

1. あらゆる世代が共に生き、活躍できるまちづくり
2. 地域産業の育成と活性化で躍動するまちづくり
3. 災害に強く、市民の安全・安心を守るまちづくり
4. 環境に配慮した暮らしを実践する、循環型のまちづくり
5. 互いを尊重し、絆で支え合うまちづくり